



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク

あったかウェルねっとニュース 第19号

2015年3月25日発行

ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/attaka17/>

2011.3.11、東日本大震災により失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

～少子高齢社会到来の中で～

2000年、国の施策は公的介護保険制度導入から各分野での大変革が始まりました。

あったかウェルねっとは、埼玉県社会福祉協議会主催の養成研修を修了し、認定を受けた「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員(以後「推進員」と略)の有志によるネットワークで、様々な立場の会員が職業・立場や地域を超えて、"福祉の心"の育成や"自立と共生の福祉社会"をめざし、埼玉県域で活動しています。

第19号に寄せて

福祉教育は私のライフワーク

あったかウェルねっと 相談役 坂本晃一
(大田区立徳持小学校3年生担任・
推進員第2期)

埼玉県社協を退職し早10年。教員10年目を迎えた今年、しばらくぶりの福祉教育実践を、担任するクラスで再始動しました。ほんとに僅かな一歩ですが・・・。

1学期には、学区内の高齢者デイサービスセンターへの訪問。3学期には、土曜日授業参観(道徳)で、体育館でのアイマスク・ガイドヘルプ体験。センター訪問は、偶然にも社会科 学区探検の下見でセンター前をうろうろしていたところ、所長さんに声をかけていただいたのがきっかけ。アイマスク体験は、

「あったかウェルねっと10周年記念実践集」に掲載されている、推進員の吉田より子さんの実践を拝読したのがきっかけでした。人の縁を感じる実践でした。

その他、26年度には、諏訪市社協、新潟市社協主催の福祉教育研修の講師としてお声がかかる、自分自身も久々に福祉教育の原点を学び直す機会に恵まれました。これも、県社協時代の遠いつながりが、10年たった今巡りめぐって強いつながりになった結果でした。

教員への転職後も、あったかウェルねっとに参加するたびに、代表はじめみなさんの「あったか」に元気づけられ続けてきた10年もありました。

福祉教育って、相手も自分も長期間かけてじわじわと浸透していくのだなって今感じています。そうやって気づいたら私の人生も変わっていたのですから。福祉教育を通してつながった「人の縁」が、色々な方々の間で、色々な場所で結ばれること、そして、あったかウェルねっとが今後もその光を放ち続けることを願っています。

※文中の「あったかウェルねっと10周年記念実践集」は、ねっとのホームページでご覧になれます。

お知らせ

平成27年度 総会 及び 学習会

開催日：平成27年
5月9日(土)

学習会講師：原田正樹氏
(日本福祉大学教授)

会 場：すこやかプラザ 2F 研修室 1・2・3
(JR京浜東北線与野駅 西口 徒歩10分)
対象者：1期から11期推進員、賛助会員
年会費：正会員(推進員が対象) 年会費：1,000円
(振込の方：4ページに振込先記載)
賛助会員(推進員以外の方) 年1口：500円

平成27年度 ねっと総会

受付：10時00分

総会：10時30分～11時30分

交流会＆昼食：11時30分～12時50分

※ねっとで軽食を用意します。

お早めにご連絡をお願いします。

学習会(推進員フォローアップ)

時間：13時00分～15時30分

内容：講演およびワークショップ

目的：この学習会は、地域で幸せに暮らすためには何が必要かを学び、様々な立場の人たちが会って地域とのつながりについても学びあい、「豊かな心」「共に生きる力」を育み、みんなで「ふくしの輪」を広げていけるよう開催します。

講 演：「福祉の心・福祉のまなざし」
～福祉教育の視点から～

講 師： 原田正樹氏
(日本福祉大学 教授)

あつたかウェルねっと15年目の学習会にふさわしく、推進員養成研修第1期よりご助言ご指導くださった原田正樹先生の講演です。どなたでも参加できますので、お誘い合わせのうえ奮ってご参加ください。

社会福祉問題を解決する実践力を培って「自立と共生の福祉社会」「福祉のまち」「ノーマライゼーションの具現化」を目指していくよう学び合いましょう。

申込先：ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)
メールアドレス：masako-s@tcat.ne.jp

事前
の申
し込
み
を
お
願
い
し
ま
す。

まなびば しゃべりばカフェ 第5回

冬カフェ in 東松山 発達凸凹シンポジウム

～「目に見えない障害」発達障害について～

平成27年2月8日(日)、東松山市 市民福祉センター「ソラーナ」にて、第5回まなびばしゃべりばカフェを実施しました。

今回は、東松山市社協・嵐山町社協と「ふくふく木曜会」(東松山市と嵐山町の福祉教育ボランティア学習推進員が協同して活動)との共催でおこなわれ、発達障害のある人たちのシンポジウムに続き、グループごとで話し合い、情報交換をおこないました。



《発達凸凹シンポジウム》

【発表者】

O.Mさん(女性)：高次脳機能障害

Y.Kさん(男性)：学習障害・LD、注意

欠陥多動性障害・ADHD

S.Eさん(女性)：アスペルガー、ADHD

3人の発表者とふだんから交流がある中島満さん(東松山市・推進員第8期)のコーディネートで、三者三様の特性に合わせ、シンポジウムが進行されました。

発達障害は個別性が高いこと、目に見えない障害なので「分からず、分かりづらい、理解出来ない」となってしまう。けれど、

・見えない障害があること

・見えない部分で大変さがあること
・理解されない大変さがあること
を知って欲しい、理解者を増やしていきたい、と発表されました。

暮らしの中の様々な場面で生きづらさを感じる事、不得手な分野（整理整頓、金銭管理、突然の予定変更、近所づきあい等々）には支援やサポートが必要な事、地域での理解者を得ることがとても難しい等、初めて知ることばかり。東松山市や嵐山町はもとより、小川町、坂戸市、鶴ヶ島市、川越市、さいたま市、川口市、鴻巣市、熊谷市、三芳町など県内各地から73名の参加があり、発達障害を持つ人やその家族、視覚・聴覚・身体に障害のある人、盲導犬ユーザー、民生委員、ボランティア、福祉・医療関係等々、実にさまざまな立場の方々が参加され、熱心に学び合いました。

《後半のグループワークより》

- ・当事者の方のお話を直に聞けたのがとても良かった。
- ・発達障害者だけでなく、他の障害でも「具体的に伝えること」が大切だと思った。
- ・まだまだ理解が足りないと思うので、この様にお話を聞く機会があることはとても重要だ。
- ・地域で障害を持っている人が外に出たいと思う社会を作っていくなくてはとグループで話し合った。
- ・発達障害の理解について、学校関係の方々にたくさん分かって欲しいと強く感じた。
- ・福祉に携わる私たちが、今まで分からなかつた発達障害について理解する機会は必要だ。
- ・ご家族に発達障害があるかたで、理解したいという気持ちで参加された方々がおられた。
- ・地域で「見えない障害」っていうのを理解しながら、協力し育ちあつていただきたい。
- ・みんなの話を聞いて、根気よく、根気よくお話しする事が大切だと分かった。
- ・誰にも分かってもらえないっていうのも、

ほんとにつらいだろうと思う。これから向き合っていきたいと思う。

- ・障害が分かるまでにはとても時間がかかったと思いますし、大変つらい思いをしてきたことでしょう。
- ・大勢のみなさんの前で勇気を出して話してくださったこと、ありがとうございました。
- ・地域に戻ったら、ちょっと動きたいなあって思っています。
- ・お話を聞きながら、教育も私たち自身も、地域の人も、きっちとした気持ちで、障害を見る目を持っていかないといけないとわかった。
- ・3人のお話のなかで、自分にあった職場で働く様子を聞いて安心した。難しかったけど、楽しいカフェでした。

人事院職員研修で講師役

福祉体験・ワークショップも ～人事院公務員研修所（入間市）～

木野登紀子（毛呂山町・推進員第2期）

高橋キミ子（坂戸市・推進員第3期）

須田正子（坂戸市・推進員第3期）

11月28日（金）、人事院関東地区中堅係員研修「相手の立場に立って考える」で、講義・疑似体験を担当しました。（研修生42名）

坂戸市の障害者支援ボランティア「あしたば」、視覚障害者と仲間の会「いどばた」にもご協力いただき、車いす・アイマスク体験プログラムやグループワーク等を通して「福祉の心」を伝えました。

「目線が変わり、物の見え方や捉え方が変わった」、「今までおこなったことのない体験をし、相手の立場に立って物事を考えることの大切さを理解することが出来た。業務において積極的に活用していきたいと考える。」との感想をいただきました。

県社協からの情報

来年度も、県社協では引き続き、誰もが孤立することなく、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるよう、「共生・共助つながりづくり」を推進します。

新規事業として、団塊世代を含む幅広い世代が自分の生き方や将来を考える機会・きっかけとなるプログラムを開発し、市町村社協や協力団体等による講座等の実施及び企業への出前講座を行い、社会参加や地域福祉活動への関心を深めるきっかけ作りとする「ライフデザイン推進事業」に取り組みます。

また、今年度1,711通の応募をいただいた小中学生作文コンクールや高校生ボランティア交流会、市町村社協を通じた学校への福祉図書等の貸出、ボランティア体験プログラムを通じて、児童・学生の福祉マインドの醸成やボランティア活動の推進を図ります。

さらに、住民による福祉実践のシンポジウムをはじめ、孤立防止フォーラム&サロン研修会（同日開催、県内10か所予定）、福祉施設の社会貢献と児童の福祉教育を推進する「福祉の心を育む交流事業」、福祉教育推進セミナー等も引き続き実施し、福祉教育や地域福祉活動を推進します。

推進員の皆様には、各地域における福祉教育の推進にご支援ご協力いただくとともに、県社協及び市町村社協事業への積極的なご参加をよろしくお願ひいたします。

《追伸》この度、異動となり、担当が代わることになりました。ねつとの皆様には4年間にわたり、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

【県社協 金子】

ねつと事務局より

次回「夏カフェ」のお知らせ

第6回まなびばしゃべりば「夏カフェ」

タイトル：「おしゃべりしよう！ミニカフェで」

日時：平成27年7月2日（木）

午後1時30分～3時45分

場所：埼玉県男女共同参画推進センター

（With You さいたま）セミナー室

さいたま新都心駅から徒歩5分

ホテルブリランテ武藏野4階

参加費：100円

ゲストスピーカー：櫻井よう子さん（さいたま市

在住・盲導犬ユーザー、賛助会員）

著書『アンソニー、きみがいるから

～盲導犬がはこんでくれたもの』

詳細はHPで！【あつたかウェルねつと】で検索！

<http://www.geocities.jp/attaka17/>

ねつとの情報をお届けします

メールでも情報を届けています。アドレス（携帯アドレスも可）をお持ちの方はお手数ですが、下記の事務局までお知らせください。

ねつと事務局 須田 049-283-1865（FAX）

メールアドレス：masako-s@tcat.ne.jp

会費振込先のお知らせ

活動は、ねつと会費（年1000円）で運営しています。みなさまのご協力をお願いします。

振込先：埼玉りそな銀行武藏浦和支店・

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

編集後記

あなたの地域でもまなびばしゃべりばカフェをやってみませんか？福祉交流イベントやワールドカフェ、ミニカフェなど事務局が企画のお手伝いも。お声がけをお待ちしています。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
(愛称：あつたかウェルねつと)

編集：あつたかウェルねつと（情報担当）

連絡先：埼玉県社会福祉協議会 地域活動支援課

TEL：048-822-1435 FAX：048-822-1449

Mail：VC@fukushi-saitama.or.jp